

第5学年O組 国語（書写）科学習指導案

平成27年5月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇 印

1 単 元 文字の組み立て方1

2 単元の目標

- (1) 「へん」と「つくり」の組み立て方に気を付けて、字形を整えて書こうとする。
- (2) 「へん」と「つくり」の幅や、「土」の点画の変化に気を付けて、字形を整えて書くことができる。

3 学習の計画 (2時間完了)

第1時 「へん」や「つくり」の組み立て方に気を付けて、「土地」を書く。

第2時(本時) 幅や点画の変化に気を付けて、「土地」をまとめ書きする。

4 本時の学習指導

(1) 目 標

- 「左右」の組み立て方からなる文字の点画の変化に気を付けて、字形を整えて書こうとする。
- 「へん」と「つくり」の幅や形の変化に気を付けて、字形を整えて書くことができる。

(2) 準備・資料

- 児童……毛筆書写の道具、新聞紙(作品入れ)、ペットボトル500ml(筆洗い用)
- 教師……提示用手本、ワークシート(手本に「へん」と「つくり」を色分けしたシートを重ねられるもの)、バケツ、練習用紙(「へん」を枠で囲んだもの)、まとめ書き用紙

(3) 関 連

4年 書写 文字の組み立て方(上下・左右の組み立て方の文字の幅や形を理解する)

5年 書写 文字の組み立て方2(中と外の組み立て方と点画のつながりを理解する)

(4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 事 項
つ か む	1 前時の学習を想起する。	3	○単体の文字が「へん」になると幅が狭くなることを想起させる。
	2 本時の学習課題をつかむ。 (1) 「土地」を試し書きする。	8	○一枚試し書きをさせる。
	(2) 幅や高さや点画の変化について確認する。 ・土地…へんとつくりが2:3 三画目が「はらい」に変化 横画は右上がり	15	○ワークシートを使って「へん」と「つくり」を色分けして示すことにより、幅や高さ、点画の変化を視覚的につかませる。 ○点画の譲り合いによって構成されていることを確認させる。 ○「へん」の最後の画の形が変化することを押さえる。
	(3) 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">「へん」のはばと、点画の形に気を付けてまとめ書きしよう。</div>	20	○点画の変化に気を付けて、字形を整えて書くことを留意させる。

練習する	3 「土地」を練習する。 (1) 部分練習をする。 ・「へん」 ・「つくり」 ・「へん」と「つくり」	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>○練習用紙を使用させる。</li> <li>○机間指導をし、個別に支援する。</li> <li>○「土」が「つちへん」になると、幅が狭くなること、三画目が短い「はらい」になることに注意して練習させる。</li> <li>○「つくり」の幅、「おれ」と「はね」の部分に気を付けて練習させる。</li> <li>○点画の譲り合いに気を付けて練習させる。</li> <li>○部分練習で気を付けたことを留意しながら、全体のバランスに気を付けて書かせる。</li> </ul>
	4 「土地」をまとめ書きする。	40	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部分練習で気を付けたことを留意しながら、全体のバランスに気を付けて書かせる。</li> <li>評文字の点画の変化に気を付けて、教材を練習している。(練習)</li> <li>○まとめ書き用紙を使用させる。</li> </ul>
まとめ	5 学習のまとめをする。 (1) 本時の学習を振り返る。  (2) 次時の課題を確認する。	45	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手本、試し書き、まとめ書きを比べ、上達したところを見つけさせる。</li> <li>○教科書 p. 7 「ふり返ろう」に自己評価をさせる。</li> <li>○作品を集める。</li> <li>評「へん」と「つくり」の幅と「へん」の最後の面に気を付けて、教材を正しく書いている。(作品)</li> <li>○次時は、中と外の組み立て方と、穂先の動きに気を付けて、「道」を書くことを確認する。</li> <li>○後片付けを手際よくさせる。</li> </ul>

(5) 本時の評価規準

- 単体の文字が「へん」になったときの変化をつかみ、組み立て方に気を付けて教材を書こうとしている。(練習)
- 「へん」と「つくり」の幅や「つちへん」の形に気を付け、字形を整えて、教材を正しく書いている。(作品)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 毛筆の扱いに慣れている児童と、慣れていない児童との差が大きい。どの児童も教材文字を進んで書くことはできるが、文字の組み立てや幅・点画の変化などに気を付けて書くことはあまりできていない。

(2) 指導の力点

○教材を試し書きさせた後、手本と比べたり「へん」と「つくり」を色分けしたワークシートで組み立て方の変化や特徴を確認させたりすることで、課題を明確化させ、児童の学習意欲を高め、興味をもって教材を書けるようにする。

6 指導と評価